

「抜き」などと呼ぶ。 自衛隊員が... の抜力を... たいし...
一年... 町... 町...

横須賀商工会議所は、横須賀サッカー協会の社会人チーム「横須賀マリソフC」の選手に対する雇用支援を始めた。企業側は若手の人材を確保でき、選手側は仕事と競技を両立させやすくなる。定住促進にもつなげたい考えた。(織田 匠)

サッカー「横須賀マリソフC」

マリソフCは、地域サッカーの受け皿になろうと昨年1月に設立。地元ゆかりの選手たちで構成され、2年目の今季は昇格した県社会人リーグ2部で奮闘している。最終的には関東リーグの昇格が目標だ。

現在、社会人13人と大学生20人が在籍。このうち8人の社会人が市外の企業などで働いており、これまで市内練習場の開始時間に間に合わないといった声が出ていた。勤務先が都内で入団を断念した選手もいたという。

若い人材に地元で定住してもらおうと、同商議所はマリソフCに積極的に雇用支援するサポーター企業を募集を開始。企業は今後、説明会や面接などを行い、希望者を採用していく。約90社が賛同しており、すでに建設や飲食業など3、4社が採用に興味を示しているという。インターンシップ(就業体験)やアルバイトの紹介も行う。

企業にとっては、若手の人材確保や企業イメージの向上といった効果が期待できる。一方、選手には地元で安心して仕事とサッカーに打ち込める環境が整い、チーム戦力の増強にもつながる。



雇用支援で連携し、握手する平松会頭(左)と豊田ヘッドコーチ
＝横須賀商工会議所

がる。

県内の商工会議所でスポーツチームに就職支援する試みは初めてといい、平松廣司会頭は「サッカーをしながら地元企業に勤めたい」という方に定住してもらうため、後押ししたい。中小企業にとっても、会社の特色を出す経営手法の選択肢の一つになるのでは」と話す。マリソフCの豊田哲也ヘッドコーチは「横須賀で働いて家族を持ち、子育てをして、また横須賀の子どもたちにサッカーで還元していくという流れができれば、地域にも貢献できる」と喜んでくれた。

湯「銀泉浴場」で9日、浴場の壁面に描かれた背景画の描き替えが行われた。14年ぶりの作業で、富士山や松を描いた鮮やかな絵がお目見えした。
同浴場は1953年ごろにでき、61年ごろから現在の店主の林秀雄さん(80)が運営する。描き替えは主に関東圏で活動するペンキ絵師の田中みずきさん(32)も高さ約3m、幅約3

鎌倉3海水浴場

1日にオープンした鎌倉の3海水浴場では8月31日までの開設期間中、さまざまなイベントを用意して親子連れなど来場者の呼び込みを図っている。

18、19日に材木座海水浴場では第3回「市民の浜の盆踊り大会」が開かれる。親子3世代で楽しめる夏の思い出づくりのため、海の家などでつくる実行委員会が企画した。学校が夏休みを迎える時期に合わせて、夕どきの浜辺で浴衣姿の市民たちが憩う人気の催しだ。

続く20日には由比ガ浜海水浴場の入り口に、ハトの砂像が登場する。3海水浴場のネーミングライツパートナー(命名権者)でもある老舗菓

イベントで思い出を

子店 風紀 予定 26 期間 15日 象に 全数 水浴 発信